



2023年5月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年3月31日

上場会社名 ヤマシタヘルスケアホールディングス株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9265 URL https://www.yhchd.co.jp/
 代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員 社長 (氏名) 山下 尚登
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 北野 幸文 (TEL) 092-402-2922
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年5月期第3四半期の連結業績(2022年6月1日~2023年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年5月期第3四半期	41,725	2.7	895	5.0	936	3.2	1	△99.8
2022年5月期第3四半期	40,636	—	852	26.0	907	25.3	592	19.2

(注) 包括利益 2023年5月期第3四半期 △80百万円(—%) 2022年5月期第3四半期 513百万円(△5.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2023年5月期第3四半期	円 銭 0.46	円 銭 —
2022年5月期第3四半期	232.03	—

(注) 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を前第1四半期連結会計期間の期首より適用しております。2022年5月期第3四半期に係る各数値については、当該会計基準等を適用した後の数値となっており、売上高については対前年同四半期増減率を記載しておりません。なお、従来の方法によった場合、前第3四半期連結会計期間の売上高の対前年同四半期増減率は8.2%増となります。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2023年5月期第3四半期	百万円 22,495	百万円 7,715	% 34.2
2022年5月期	24,086	8,005	33.1

(参考) 自己資本 2023年5月期第3四半期 7,695百万円 2022年5月期 7,980百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2022年5月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 82.00	円 銭 82.00
2023年5月期	—	0.00	—	—	—
2023年5月期(予想)	—	—	—	46.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2023年5月期の連結業績予想(2022年6月1日~2023年5月31日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	55,651	0.9	1,049	12.8	1,103	10.0	198	△71.4	—	77.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

期中における重要な子会社の異動に関する注記

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用に関する注記

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
 ② 期末自己株式数
 ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年5月期3Q	2,553,000株	2022年5月期	2,553,000株
2023年5月期3Q	114株	2022年5月期	114株
2023年5月期3Q	2,552,886株	2022年5月期3Q	2,552,886株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(金額の表示単位の変更について)

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載していましたが、第1四半期連結会計期間及び第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第3四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報)	8
(収益認識関係)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（2022年6月1日～2023年2月28日）におけるわが国では、新型コロナウイルスの感染拡大が昨年8月に第7波のピークを迎えたのち、本年1月にピークを迎えた第8波も現在は落ち着きをみせ、この3月からはマスクの着用を個人の判断に委ねる方針が発出されるなど、各国の感染対策状況を踏まえつつ社会経済活動の活性化を図る動きがみられています。他方、終息の見えないロシアによるウクライナ進攻情勢、エネルギー資源や原材料の高騰など、依然として国内経済の先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループが属する医療業界におきましては、2022年4月に診療報酬改定が実施され、社会保障の柱組みとしての医療提供体制の整備が継続的に図られています。

医療機器業界におきましては、同診療報酬改定による医療材料償還価格の引き下げや資源・原材料価格の高騰等の環境悪化要因が増大する中、各企業は医療機関のニーズや経営改善・業務効率向上に資する製品・サービスの提供に加え、コスト削減による医業収益向上への寄与がより一層求められております。

このような状況の中、当社グループでは、コロナ禍において営業活動に一定の制約はあるものの、グループの事業会社6社それぞれが、許容される範囲で各々の営業活動を行ってまいりました。

これらの結果、当社グループの中核事業である医療機器販売業において、コロナ対策補助金による医療機関の設備投資需要が前年同期よりも減少したものの、前期新型コロナウイルスの感染拡大により減少していた検査・手術件数の回復による診療材料の売上が回復・増加したことや、新型コロナウイルス検査試薬やPPE（個人防護具）の消費が継続したこと等により、当第3四半期連結累計期間における売上高は、417億25百万円（前年同四半期比2.7%増）となりました。利益面につきましては、売上増加に伴う売上総利益の増加により営業利益は8億95百万円（前年同四半期比5.0%増）、経常利益は9億36百万円（前年同四半期比3.2%増）となりました。なお、第2四半期連結累計期間において、取引先であるジェミック株式会社にて生じた債権の全額6億11百万円を取立不能見込額として貸倒引当金を設定し、同額を特別損失として貸倒引当金繰入額を計上いたしております。この結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1百万円（前年同四半期比99.8%減）となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。なお、各セグメントの売上高はセグメント内の内部売上高を含んでおります。

① 医療機器販売業

医療機器販売業のうち一般機器分野では、一般医療機器備品やMR I、CT等の画像診断機器や放射線診断装置及び超音波診断装置の売上により53億89百万円（前年同四半期比14.1%減）となりました。一般消耗品分野では、汎用消耗品、感染対策消耗品及び手術関連消耗品の売上により178億27百万円（前年同四半期比3.0%増）となりました。内視鏡、サージカル、循環器等により構成される低侵襲治療分野では、電子内視鏡手術システム等の内視鏡備品や、腹腔鏡システム等のサージカル備品、血管内治療、内視鏡関連消耗品の売上により99億92百万円（前年同四半期比9.1%増）となりました。整形、理化学、眼科、皮膚・形成、透析により構成される専門分野では、PCR検査装置関連製品や眼科用検査装置等の売上により75億33百万円（前年同四半期比9.7%増）となりました。医療情報、設備、医療環境等により構成される情報・サービス分野では、8億69百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

この結果、医療機器販売業の売上高は416億13百万円（前年同四半期比2.8%増）、セグメント利益は15億74百万円（前年同四半期比4.5%増）となりました。

医療機器販売業の売上高は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	前第3四半期連結累計期間		当第3四半期連結累計期間		増減額	前年同期比 (%)
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)		
一般機器分野	6,275	15.5	5,389	13.0	△886	△14.1
一般消耗品分野	17,300	42.7	17,827	42.8	527	3.0
低侵襲治療分野	9,156	22.7	9,992	24.0	836	9.1
専門分野	6,870	17.0	7,533	18.1	663	9.7
情報・サービス分野	877	2.1	869	2.1	△7	△0.9
小計	40,479	100.0	41,613	100.0	1,133	2.8

② 医療機器製造・販売業

医療機器製造・販売業におきましては、主としてグループ開発製品である整形外科用インプラントを製造・販売しており、売上高は2億11百万円（前年同四半期比1.1%減）、セグメント利益は10百万円（前年同四半期比12.2%減）となりました。

③ 医療モール事業

医療モール事業におきましては、主として賃料収入により売上高は50百万円（前年同四半期比2.4%減）、セグメント利益は0百万円（前年同四半期はセグメント損失7百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は224億95百万円となり、前連結会計年度末に比べて15億90百万円減少いたしました。流動資産は、主に現金及び預金の減少、受取手形、売掛金及び契約資産の減少により、前連結会計年度末に比べて13億18百万円減少し、174億75百万円となりました。固定資産は、減価償却による有形固定資産の減少および投資有価証券の減少等により、前連結会計年度末に比べて2億72百万円減少し、50億20百万円となりました。

(負債及び純資産の部)

当第3四半期連結会計期間末の負債は、電子記録債務の減少等により、前連結会計年度末に比べて13億1百万円減少し、147億80百万円となりました。また、純資産は、前連結会計年度末に比べて2億89百万円減少し、77億15百万円となり、自己資本比率は34.2%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月期の連結業績予想につきましては、本日（2023年3月31日）公表いたしました「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,975	3,268
受取手形、売掛金及び契約資産	11,906	10,888
商品	2,683	3,089
その他	245	245
貸倒引当金	△17	△17
流動資産合計	18,793	17,475
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,645	3,645
減価償却累計額	△1,980	△2,066
建物及び構築物（純額）	1,665	1,579
土地	1,649	1,649
その他	823	820
減価償却累計額	△675	△702
その他（純額）	148	117
有形固定資産合計	3,463	3,345
無形固定資産		
のれん	70	59
その他	70	59
無形固定資産合計	140	119
投資その他の資産		
投資有価証券	1,149	1,018
関係会社株式	-	26
破産更生債権等	1	613
その他	540	511
貸倒引当金	△1	△613
投資その他の資産合計	1,689	1,555
固定資産合計	5,293	5,020
資産合計	24,086	22,495

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,896	7,753
電子記録債務	6,006	5,676
未払法人税等	127	25
賞与引当金	635	199
その他	889	524
流動負債合計	15,555	14,180
固定負債		
退職給付に係る負債	237	215
その他	287	384
固定負債合計	525	599
負債合計	16,081	14,780
純資産の部		
株主資本		
資本金	494	494
資本剰余金	627	627
利益剰余金	6,296	6,088
自己株式	△0	△0
株主資本合計	7,417	7,209
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	651	557
退職給付に係る調整累計額	△88	△72
その他の包括利益累計額合計	562	485
非支配株主持分	24	20
純資産合計	8,005	7,715
負債純資産合計	24,086	22,495

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年6月1日 至2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年6月1日 至2023年2月28日)
売上高	40,636	41,725
売上原価	35,149	36,017
売上総利益	5,486	5,708
販売費及び一般管理費	4,633	4,813
営業利益	852	895
営業外収益		
受取利息及び配当金	7	8
仕入割引	11	10
持分法による投資利益	10	-
受取手数料	19	20
その他	13	14
営業外収益合計	62	55
営業外費用		
支払利息	2	1
為替差損	-	1
手形売却損	4	5
持分法による投資損失	-	3
その他	1	0
営業外費用合計	7	14
経常利益	907	936
特別利益		
条件付対価受入益	11	6
段階取得に係る差益	4	-
投資有価証券売却益	-	1
特別利益合計	15	8
特別損失		
貸倒引当金繰入額	-	611
特別損失合計	-	611
税金等調整前四半期純利益	923	333
法人税、住民税及び事業税	141	176
法人税等調整額	190	159
法人税等合計	332	336
四半期純利益又は四半期純損失(△)	591	△3
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△4
親会社株主に帰属する四半期純利益	592	1

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2022年2月28日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	591	△3
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△80	△93
退職給付に係る調整額	2	16
その他の包括利益合計	△77	△77
四半期包括利益	513	△80
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	514	△76
非支配株主に係る四半期包括利益	△1	△4

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年6月1日至2022年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	医療機器 販売業	医療機器 製造・販売業	医療モール 事業	計		
売上高						
一般機器分野	6,275	—	—	6,275	—	6,275
一般消耗品分野	17,300	—	—	17,300	—	17,300
低侵襲治療分野	9,156	—	—	9,156	—	9,156
専門分野	6,870	—	—	6,870	—	6,870
情報・サービス分野	877	—	—	877	—	877
その他	—	214	—	214	—	214
内部売上高	△109	—	—	△109	△0	△109
顧客との契約から生じる 収益	40,370	214	—	40,585	△0	40,584
その他の収益	—	—	51	51	—	51
外部顧客への売上高	40,370	214	51	40,636	—	40,636
セグメント間の内部売上高 又は振替高	0	0	—	0	△0	—
計	40,370	214	51	40,636	△0	40,636
セグメント利益又は損失(△)	1,506	12	△7	1,511	△658	852

(注)1. セグメント利益又は損失の調整額△658百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△638百万円、棚卸資産の調整額△1百万円、のれん償却額△18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年6月1日 至 2023年2月28日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	医療機器 販売業	医療機器 製造・販売業	医療モール 事業	計		
売上高						
一般機器分野	5,389	—	—	5,389	—	5,389
一般消耗品分野	17,827	—	—	17,827	—	17,827
低侵襲治療分野	9,992	—	—	9,992	—	9,992
専門分野	7,533	—	—	7,533	—	7,533
情報・サービス分野	869	—	—	869	—	869
その他	—	211	—	211	—	211
内部売上高	△137	—	—	△137	△11	△149
顧客との契約から生じる 収益	41,475	211	—	41,687	△11	41,675
その他の収益	—	—	50	50	—	50
外部顧客への売上高	41,464	211	50	41,725	—	41,725
セグメント間の内部売上高 又は振替高	11	0	—	11	△11	—
計	41,475	211	50	41,737	△11	41,725
セグメント利益	1,574	10	0	1,586	△690	895

(注) 1. セグメント利益の調整額△690百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△680百万円、棚卸資産の調整額△0百万円、のれん償却額△10百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門等に係る費用であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。